青春 くろーずあっぷ

幼いころからの農業の思いをもって

伏見　侑晟 さん

ふしみ　ゆうせい　さん / 平成１５年、北見市生まれ / ２０歳 /JA つべつ　勤務

伏見侑晟さんは、ＪＡつべつ経済部農産課に勤務し、でんぷん用馬鈴薯の生産管理や出荷業務などを担当しています。

北見市出身の伏見さんは、小学生の頃に体験した田植えをきっかけに農業への関心を持ちました。祖母が上富良野町で農家を営んでいたこともあり、農業は身近な存在だったといいます。北見商業高校在学中にＪＡつべつの求人を知り、インターンシップを経験したことから、志望しました。入組前には農協学校（ＪＡカレッジ）で１年間学び、基礎を身に付けました。

出荷時期は覚えることも多く、時には厳しく指導を受けながら業務を行うこともありますが、「農家さんと直接話しながら仕事ができるのが楽しい」と、やりがいを感じているそうです。

先日は成人式にも出席し、地元の友人たちと再会を楽しみながら、新たな節目を迎えました。

温故知新 ＃560

百年の歩み、土とともに

後藤　政市 さん

ごとう　まさいち　さん / 大正１４年、沼沢生まれ / １００歳 / 達美在住

大正14年9月9日生まれ。掲載号時点で１００歳を迎えた後藤 政市さんは、沼沢地区に生まれ、８人兄弟の６番目、３男として大家族の中で育ちました。

実家は農業を営んでおり、大豆や小豆、じゃがいも、とうもろこしなどを作り、子どものころから畑仕事を手伝い、家族を支えてきました。高等小学校在学中、２番目の兄が出征したことをきっかけに中退し、本格的に家業に専念することになります。

25歳のとき、テル子さんと結婚。２年間本家で働いたのち、双葉地区に分家しました。

分家後は、ビートや小麦、白金時、小豆などを作っていました。当時の農地は１・５haほどと、離れた場所に２haほどあり、決して広くはなく、生活は楽ではありませんでした。朝は３～４時に起き、夜は７～８時まで働く毎日。５haの大きな畑を借りた際には、「でめんさん（アルバイト）」を多く頼んで、何とか農業を営んでいたといいます。

「小豆を鎌で刈っていたころ、昼休憩の合間にでめんさん全員の鎌を研ぎ、交代で休憩に入っていた思い出は、今でも忘れられない。」と、当時の苦労を述懐します。

72歳のときに離農を決意。現役時代は仕事一筋で、趣味らしい趣味はありませんでしたが、引退後に始めたパークゴルフでは、奥さんや近所の仲間と楽しみながら数々の大会で入賞し、トロフィーを手にしたことが良い思い出になっています。

現在は娘夫婦と暮らしており、「娘が身の回りのことを気に掛けてくれるおかげで、こうして生活できている。」と話します。健康の秘訣を尋ねると、「朝は早く起きて、夜は体調に従い寝ること。」と一言。百年を生き抜いてきた重みのある言葉でした。

来月は

地域おこし協力隊の思いつき日記

になります。

暮らしを支える 税　所得税確定申告はお早めに

令和７年分所得税確定申告の役場受付期間は、２月16日（月）から３月12日（木）までです。

また、所得税の還付申告については、２月９日（月）から受け付けます。

受付場所　役場１階税務担当　10番窓口

受付時間　午前９時～正午、午後１時～５時

※受付時間については、事前にご連絡いただければ、夜間の受付も対応します（午後８時まで）。

【確定申告の受付区分について】

１月号広報に掲載しました通り、次の確定申告については津別町役場では受け付けませんので、e-tax での電子申告、札幌国税局業務センター旭川分室への書面郵送、網走税務署での窓口相談により申告してください。①青色申告、②譲渡所得、③株式等の譲渡所得、④利子・配当・山林所得、⑤住宅借入金特別控除、⑥更正の請求、⑦事業所得の初年度申告、⑧過年分申告

【申告に必要なもの】

税務署からお知らせはがきが送付されている方は、そのお知らせはがき、源泉徴収票（給与、公的年金）、国民年金控除証明書、生命保険・地震保険・旧長期損害保険控除証明書をご持参ください。また医療費控除をされる方は、医療費控除明細書に、個人ごとの各病院・各薬局それぞれの合計額及び高額療養費等の補填金額を計算して記入してください（役場での代理作成は行いません）。なお、所得税の還付金が出る方は、申告者名義の銀行口座を控えてきてください。

また、パソコンやスマートフォンを利用した電子による申告書の提出については、P12～13をご確認ください。

問い合わせ先　税務収納係 10 番窓口　☎ 77 － 8376

津別町郷土芸能 山鳴太鼓保存会

タウンニュース つべつ　第106回

現在インターネットで公開中！　町のHPをご覧ください

町内で行われるイベントで欠かせない存在、津別町の郷土芸能「山鳴太鼓（やまなりだいこ）」。

昭和 55 年に郷土芸能として発足させた情熱あふれる太鼓の達人、渡辺会長にそのルーツを聞きました。さらにキャスターが中央公民館で行われている練習に潜入し、初めての太鼓を体験。お腹に響く大迫力の太鼓が、ストレス発散にもつながると、若い世代の心も掴んでいます。子ども、親、その親世代が共に太鼓を叩き汗をかく姿に、郷土芸能の未来が見えました。

日本が誇る和太鼓の伝統を守り、つなげる津別町の郷土芸能の今を取材しました。

この番組は、津別町の今を映像で定期的に発信（月１回）することで、町民の町づくりへの参加促進、移住・定住の促進、ふるさと納税の拡大を図り、町づくりの記録を残すことで、10 年後 20 年後の町民への財産とします。完成した映像は、町の Web サイトや道東テレビ、YouTube 等で公開いたします。また、さんさん館、津別病院、道の駅あいおい、北見信用金庫津別支店、網走信用金庫津別支店に設置された「デジタルサイネージ（映像看板）」でも視聴することができます。**※タウンニュースつべつは、ふるさと納税の寄附金により制作しています。**

毎月末日ごろ更新　《取材希望企業・飲食店・生産者募集 !! 詳しくは役場住民企画課まで》

問い合わせ先　住民企画課　企画係 14-1 番窓口　☎ 77 － 8374